

平成22年5月31日

堺市長 竹山 修身様
堺市議会議員 様

阪堺線存続への要望書（案）

われわれ堺市内で活動を行う市民団体は、阪堺線は堺市にとって貴重な財産であると考え、阪堺線を存続・再生させることを堺市に対して要望いたします。

- 1, 少子高齢化・環境問題に対応するためには、公共交通の抜本的な改良・拡充が必要です。とくに堺市は環境モデル都市に選ばれていることから、それに相応しい都市交通政策を実施する責務があります。堺市は、過度のクルマ依存を見直し、公共交通・徒歩・自転車中心の交通政策に転換する交通戦略方針を打ち出したうえで、阪堺線などの鉄軌道交通の改良、市内の路線バスの強化、自転車・歩行者への支援強化策を実行すべきです。
- 2, 路面電車は環境と福祉に優しいまちづくりの切り札として、世界中で活用されています。一度路面電車を廃止したフランスやアメリカでも、現在積極的に復活を進めています。阪堺電車は世界的にみて貴重な堺の財産です。先人から引き継いだ路面電車という貴重な遺産を維持・活用すべきです。
- 3, 現在、阪堺線の設備・車両は陳腐化が進んでいます。バリアフリー化を進め、より省エネの交通機関としてイノベーションを行うべきです。また、運賃システムの抜本的見直しも必要です。
- 4, 堺市の総合的な交通計画を策定すべきです。総合交通計画は、住民参加のプロセスを経て合意すべきです。
- 5, 公共交通を活かすようなまちづくりを行うべきです。TDM(交通需要マネジメント)施策によりクルマ利用から公共交通利用への転換を促し、阪堺線沿線に公共施設や集客施設を整備すべきです。
- 6, 沿線自治体である堺市・大阪市・大阪府の三者で、阪堺線活用に取り組む合同組織を立ち上げるべきです。

われわれ堺の住民団体は、人と環境にやさしい交通を実現するために実施される阪堺線再生、およびその他の交通政策の実現に向けて、積極的に議論に参加し、情報発信や公共交通の利用促進に努めていきます。

以上

要望書への賛同団体

阪堺線存続検討ワーキンググループ

代表：